

第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録			
日 時	平成26年4月10日（木）午後6時00分～6時45分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	7名
出席者	委 員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、神谷坂敏 (11名出席)	
	行 政		
	事務局	企画部長 加藤元久 総合政策グループ リーダー 木村忠好 同 主 幹 鈴木明美 同 主 査 山本衣江 同 主 査 山本久美 同 主 査 榊原雅彦 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀 (9名出席)	
次 第	1 あいさつ 2 辞令交付 3 議題 1) 推進会議の3年間の総括について 2) 前期基本計画総括の進め方について 4 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第4回）会議録 資料2：第6次高浜市総合計画推進会議委員名簿 資料3：「第6次高浜市総合計画推進会議」3年間（H23～H25）の総括 資料4：第6次高浜市総合計画 前期基本計画 総括の進め方について【案】		

1. あいさつ

(会長)

- ・第6次高浜市総合計画推進会議（第1回）を始めさせていただく。当初は3月の開催を予定していたが、私の事情で延期となりましたことお詫び申し上げます。
- ・本来、委員の任期は3月末までということであったが、前期基本計画の進行管理、3年間の取組みを最も良く知る立場として成果等を検証し、総括して市民の皆さんに公表する場面にも立ち会う必要があるということで、もう少し任期を延長して総括に取り組もうということになった。皆様よろしくお願ひしたい。
- ・新しい副市長が委員になられたということなので、一言ごあいさつを賜りたい。

(副市長)

- ・この3月まではこども未来部長ということで委員の皆様のご意見を頂戴する立場であった。委員の一人になったこれからもその立場というのは変わらないわけだが、前期の総括をしなければならないという大事な仕事がある。私自身としては基本目標Ⅱのところの総括が甘くならないように注意をしなければならないと思っている。
- ・委員の皆様には今後とも行政に対する関わり等でご意見を頂戴したいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

2. 辞令交付

- ・委員の皆様には今年度夏までを目安に引き続きご協力をいただける運びとなりまして感謝申し上げます。本日皆様方の席に、平成26年4月1日から平成26年9月30日までの辞令を置かせていただいているので今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・ただ今会長からもお話があったが、新年度になって事務局である地域政策Gも新たに名称を変え、総合政策Gと変わっている。メンバーもGLをはじめ異動があったので、この場をお借りして新しくGLとなった木村から事務局の紹介をさせていただく。

(資料2に基づきGLから事務局の紹介)

3. 議題

1) 推進会議の3年間の総括について

会 長： ・議題1)に入る前に、本日の資料1は第4回の会議録となっている。これは既に委員の皆様にご配布をさせていただいているので、議題としては今回割愛させていただく。それでは事務局より議題1)についてご説明をお願いしたい。

事務局より、資料3『「第6次高浜市総合計画推進会議」3年間（H23～H25）の総括』について説明。

会 長： ・平成23年度から第6次総合計画がスタートして、それに合わせてこの推進会議も発足した。私達も総合計画の進み具合を3年間見届けてきたということである。ただ今、事務局から前期の推進会議の成果と今後に向けた

課題についての説明があった。中期に向けては、市民会議がなくなるということであるので、この推進会議の役割が前期に比べて重みが増すことと思う。そこで、委員の皆様のご視点から前期の推進会議の3年間を振り返って良かった点、中期の推進会議ではどのように進行管理を行っていくのが望ましいのかといったご意見をいただきたいと思う。

委員： ・どんな進行管理が望ましいか、考えたがなかなか浮かんでこないというのが現状。そこで、今日は新聞のコピーを持ってきた。色々参考になる部分があるのではないかと思う。常に今の視点で良いのかどうか見直すということが一番必要なと最近つくづく今の経済状況を見て思っている。

委員： ・自治推進分科会では、3年間で色々な問題あったが、足固めがしっかりできたと思っている。これからの推進会議をどのように進めていくか、なかなか考えてもこれといったものがない。どこの分科会も足場はしっかりできたと思うので、今から一つずつどんな風に花を咲かせていくかを考えていきたいと思う。

委員： ・資料3の9ページ【前期の推進会議の成果】③行政活動に一定の緊張感を保つことができたにおいて、「一定の緊張感」という表現が曖昧ではないかと思う。できれば行った結果を○×△で評価していくのが良いのではないか。いずれにしても③の表現をもっと具体的に書いていただきたい。

・10ページ【中期に推進会議に向けての課題】の②についても、もう少し具体的に書いていただきたい。その他、①部会制を導入すると具体的にどうなるのか書いていただけると分かりやすい。②市民にとってわかりやすいものとなっているか、と言われてもだから何という話になってしまうので、市民にとってわかりやすいということは、前期でこういうことをやったのでわかりやすいから、こういうことを計画しようとか、こういうことは見直そうということを具体的に書いていただけると良いのではないか。

・この資料はどこか他にも公表されるのか。

行政： ・こちらは推進会議の資料ということで、ホームページ等で公開等していく。市民会議のメンバーの方に配布するという事はない。

委員： ・そういうことであれば、「まとめ」なのでもう少し今までの進行の途中経過を具体的に書いていただけるとよろしいかと思う。

- 委員： ・ 3年間の振り返りとして、私達の分科会は産業から観光と範囲が非常にバラけていたと感じる。最後の方はアベノミクスに若干救われた部分も結果的には数字に表れてくるのかなと思う。分科会と商工会や観光協会、農業委員会、JAなど我々がやっていることと、実際に動く現場のエンジンとなる人達との関係がどうしても取れないというのが実際の話である。分科会のメンバーにとっては色んな形で実践に特化してやっていただいたのだが、結果、それが本当に町のエンジンになれたのかというところ少し疑問が残る。総合計画の中で扱う分野としては次に向けていくのであれば、もう少し考え直さないとこの産業・観光分科会だけは、おそらく意味のない分科会になってしまうのではないかと個人的には感じている。
- ・ 行政に対しては、本当に熱心に取り組んでいただいたことに感謝申し上げるが、ただ自分が3年間やってきたことが総合計画達成のためになったかというところどうなのかなと思う。
- ・ もう一点は、職員の方が会議のための資料作りに没頭していたように見受けられたので、そういうことではなく、実際に本当に市民のためにやっている業務の延長上に書類が出てきて、それを議論するというところを中期に取り組んでいただければもう少し実践につながってくるのではないかなと思う。
- 委員： ・ 環境の問題というのは、市民が参画しやすく最もやりやすいが、自己責任の基で進めていかないといけない。分科会の皆さんには色んな事業を展開していただいた。
- ・ 3年間ずっと見て、事務局の工夫されたプロセスがかなり分科会の中で活きている。特に環境の問題は、広い範囲で色んな活動状況だとか思いを頭に入れながら分科会のメンバーに示さなければならない。そういう意味ではこれからも今までと同様に皆の声が輪になって、つながっていくような推進会議の在り方になっていけばと思う。
- ・ 市民会議で堂々と分科会の人々が活動を行っていた。これは26年度の大きなテーマとしてこれからもやっていきたい。卒業記念としていただいた環境美化推進委員の名を汚さないように、これが活かされたものになっていくように美化活動を続けていきたいと思っている。
- 委員： ・ 防犯・防災分科会においては、3つの柱「標高の見える化」「自助・公助の推進」「防災ネットきずこう会のコラボ」を前期取り組んできた。この3つの柱はある程度浸透してきたかなと思う。ただ今後、中期においてはそれを具体的にもっともっと推進して、まだ足りない面があると思うので、推進しながら各まち協とも色んな形でコラボしながら実行していきたいと思う。
- ・ それから、将来を担う子ども防災リーダー養成というものをやっていきたいという中で、いずれは行政の方でも取り上げていただきたい。
- ・ もう一つは、学校教育分科会の竹内リーダーが、本当に良い各学校の避難

所の運営マニュアルを作っていたので、これをうまく利用しながら各学校と協働して防災訓練をやっていく必要があると思っている。

委員：・安心・安全を基本として活動を行ってきた。防犯意識を高揚するということよりも、高浜市が安全かどうかという指数を、体感治安と警察当局の出す犯罪発生状況、これらで感じるしかないということで、昨年度はパトロールを数多く実施した。私自身分科会に加えて、防犯委員会も兼ねている。防犯委員会のメンバーを集めて色々なイベント等に出させてもらった。その効果かどうかは分からないが、1・2月の犯罪発生率は、対前年比マイナス48%となった。

・反省点としては、この推進会議でもう少し応援がほしいなと思った。

委員：・3年間ずっと思ってやってきたことは、身近な福祉を考える、皆さんに広めていくということが一点であった。

・福祉業務としては、マイレージだとか手話講座など色々な部分でつながりを見せてはいるのだが、実際のところで、身近な福祉ってどれがつながったことかなと考えると、一番はやはり「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」ということを目標に持って、それに近づくようにその福祉をどういう風に活かしていくかというところがあった。だが、これはまだまだこれからかなと思っている。そのためには協力者、人材を育てるというか、たくさんの方に伝えたいことが伝わるような工夫をすることと、そのために理解を求める働きかけというものを今後もしていかななくてはならないと思っている。宿題をいただいたが、全くまともらずに申し訳ありません。

委員：・言うまでもなく「健康」があれば何とかなる。まずは健康が第一。

・前期の成果ということで、この総合計画は行政と市民が共に考えて進めてきた計画であるが、私の目から見ると、行政職員の真剣な姿を多く見ることができた。ほぼ納得のいく進め方であったと思っている。

・また、中期に向けての課題だが、前期の見直しを合わせて、市民から見た分かりやすい計画の仕組み、情報を出して進めていただきたい。

会長：・お一人ずつご意見をいただいたが、達成・成果を実感している声もあれば、課題はまだまだ残っているぞといった声もあった。

・ちょっと補足して説明していただけたらうれしいのが、資料3の10ページ【中期の推進会議に向けての課題】①のところで「部会制の導入」という記載があるが、具体的にはどういったイメージなのか。

行政：・この部分は、委員の皆様のご意見を伺いながらこれから検討していきたいと思っているところである。例えば、今の推進会議だと10名のリーダーと一緒に施策評価の発表等を全員に発表してそこで意見をいただくということで、どうしても発言の時間が短くなってしまいうということがあるので、例えば、基本目標ごとにチーム分けをして、もう少しキャッチボールをし

っかりできるようにしてはどうかといったことが一つの案だがある。

会 長： ・いずれにしても、前期の総括をする中で、次の進め方も決めていこうという流れですね。

2) 前期基本計画総括の進め方について

会 長： ・続きまして議題3の2) について事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料4『第6次高浜市総合計画 前期基本計画 総括の進め方について【案】』について説明。

会 長： ・ただいま説明のありましたことについて、ご意見・ご質問ございますでしょうか。

委 員： ・総括の進め方は具体的に考えていかねばならない。
・「市民意識調査」を行うということだが、どういった項目をどういった形でやられるのか。できれば本当は今日この会議で話し合えれば良かったと思うが。

行 政： ・この「市民意識調査」については、基本的には前期基本計画のフレーズの部分についてどう思うかということと、みんなで目指すまちづくり指標についてお聞きするというので、例年行っているものと同じ項目を今年度も聞くという流れで考えている。

委 員： ・先回見直した目標の項目のアンケートを取り直すということですね。

行 政： ・前期計画のものです。新しい項目は今回入らない。前期のものをあくまでも問うという形。例えば、指標であると目標値を掲げているので、最終的な25年度の実績値はこうですよ、ということを選付させていただいて、それを基に25年度の施策評価を進めていくということである。

委 員： ・総括といっても結局、昨年度行った評価をもう一度取って、その3年間で評価するということですね。

行 政： ・まずは、7月の推進会議のところまでで例年行っている単年の施策評価シートを取りまとめ、そこで、委員の皆様からご意見をいただいた後、3年間をまとめるということで、7月下旬で「3年間の総括」完成となっているが、ここで行政の取りまとめを完成させて、8月の推進会議の時に、市民の皆さんが気付いた点を加えて、最終的な総括ということで完成をさせたいと考えている。

委 員： ・教育関係だと一つ、数値が非常に悪かった評価があったのだが、それはここに載ってくるのか。

行政： ・指標としては載ってくるが、3年間の総括のフォーマットをどうしていくかというところをまだしっかり決めているわけではない。例えば、指標そのものの設定の仕方が良かったのかといったところも見ていかなくてはいけないと思っている。数値としてどうだったかということではなくて、そもそもこの指標が目標の達成度合いを測るのにふさわしかったのかどうかというところも、検証の一項目としては入ってくるのかなと思っている。

4. その他

- ・議事録は、書面表決とする。
- ・今後の日程 第2回推進会議：7月25日（金）
第3回推進会議：8月26日（火）